

21号と22号の合併号である本号は、原著1編と記事3編の内容となります。原著は遅発性筋痛のモデルに対する鍼通電刺激の予防効果について、異なる刺激部位や刺激条件の面から検討した内容です。鍼灸の研究では、臨床に則した形で症状に対する治療効果を検討したものがメインだと思いますが、スポーツのコンディショニングに関する内容では予防効果を検討したものも多く見られます。本学ではスポーツ振興プロジェクトとして、トップアスリートと優れた医療人を育成する取り組みを続けていますので、現在ではたくさんの方の高レベルのアスリートが日々トレーニングを行っています。そういった環境において、筋痛に対する鍼灸の予防効果を示した論文を掲載できたことは意味があると思うとともに、今後も本学からスポーツのコンディショニングに対する研究結果が多く出ることを期待しております。また、本号の記事との一つとして、本学アスレチックトレーナー部の課外活動の取組みが紹介されており、学生さんがプロスポーツチームのトレーナーの活動を現場で見学することによって得られる刺激の大きさや貴重な体験について報告されていますので、ぜひこちらもご一読ください。

さらに本号では、故高橋則人先生の「大学周辺の野鳥」という内容のご遺稿を記事の一つとして掲載する機会を得ました。大学教員としての専門知識だけでなく、博学であった高橋先生の一面を知っていただき、高橋先生の「大学の人たちにも鳥たちのことをもっと知って欲しい。」という思いが多くの方々に届くことを祈っております。

本号を発行するにあたって、投稿、査読、編集に携われた多くの方々に御礼申し上げます。大学の紀要として、幅広く多くの学術情報をよりスピーディにお届けしていきたいと思っておりますので、今後とも明治国際医療大学誌を宜しく願いいたします。

最後になりましたが、高橋先生のご遺稿掲載にご承諾いただきましたご遺族の方に感謝申し上げますとともに、高橋先生のご冥福を心よりお祈り申し上げます。

明治国際医療大学誌編集委員会  
副委員長 林 知也